平成 26 年 11 月 14 日(金)発行

奈良県感染症情報

平成 26 年 第 45 週(11 月 3 日～11 月 9 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(10 月)
- 保健研究センターだより 薬剤耐性インフルエンザウイルスについての最近の知見

❖定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	1.91	(2.03)	➔	➔	➔	➔
2	A群溶連菌咽頭炎	1.12	(0.97)	↑	↑	↑	↑
3	RS ウイルス感染症	0.94	(0.94)	➔	➔	↗	↑
4	水痘	0.50	(0.24)	↑	↗	➔	↑↑
5	手足口病	0.44	(1.00)	↘	↘	➔	➔

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、➔横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

感染性胃腸炎は奈良県では先週から横ばいで和歌山県を除く隣接府県よりは低い状況です。RS ウイルス感染症の定点当たり報告数は先週と比較するとほぼ横ばいです。A 群溶連菌咽頭炎はやや上昇し、また例年より高く推移しています。

先週まで桜井、葛城保健所管内で小流行していた時季外れの手足口病の定点当たり報告数は下がりましたが、依然として桜井保健所管内では例年より高い状態です。インフルエンザは徐々にですが報告数の増加が見られます。今後の動向には注視する必要がありそうです。

全体的にいずれの疾患の患者報告数もまだそれ程多くはありませんが、これから寒さが厳しくなる時期は、人が多く集まる場所から帰った際の手洗い・うがいなどの基本的な感染予防対策を心がけて下さい。

❖病原体(ウイルス)検出情報(10 月)❖

検出病原体		北部	中部	南部	その他	臨床診断名
ヒトヘルペス	6	1				突発性発疹(1)
RS		2	1			異型肺炎(1)、肺炎(1)、RS ウイルス感染症(1)
アデノ	1	1	2			咽頭結膜熱(1)、発疹症(1)、下痢(1)
アデノ	3	1		2		咽頭結膜熱(2)、ヘルパンギーナ(1)
インフルエンザ	AH3	1				インフルエンザ(1)
コクサッキー	A2	1				ヘルパンギーナ(1)
コクサッキー	A5	1				ヘルパンギーナ(1)
コクサッキー	A9		1			発疹症(1)

❖定点把握感染症報告状況❖

平成 26 年 第 45 週 11 月 3 日 ～ 9 日

保健所別報告数	奈良県	北部		中部		南部	
		奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野
インフルエンザ定点数	*55*	*11*	*16*	*11*	*11*	*2*	*3*
インフルエンザ	15 (0.28)	2 (0.18)	2 (0.13)	1 (0.09)	10 (0.91)		
小児科定点数	*35*	*7*	*10*	*7*	*7*	*1*	*2*
RSウイルス感染症	32 (0.94)	7 (1.00)	6 (0.60)	9 (1.29)	8 (1.14)		2 (1.00)
咽頭結膜熱	7 (0.21)	6 (0.86)			1 (0.14)		
A群溶連菌咽頭炎	38 (1.12)	11 (1.57)	13 (1.30)	5 (0.71)	6 (0.86)	1 (1.00)	2 (1.00)
感染性胃腸炎	65 (1.91)	9 (1.29)	21 (2.10)	17 (2.43)	15 (2.14)	1 (1.00)	2 (1.00)
水痘	17 (0.50)	3 (0.43)	5 (0.50)	4 (0.57)		5 (5.00)	
手足口病	15 (0.44)		2 (0.20)	11 (1.57)	2 (0.29)		
伝染性紅斑	5 (0.15)		4 (0.40)	1 (0.14)			
突発性発しん	9 (0.26)	2 (0.29)	4 (0.40)	2 (0.29)	1 (0.14)		
百日咳							
ヘルパンギーナ	2 (0.06)				2 (0.29)		
流行性耳下腺炎	6 (0.18)	3 (0.43)	1 (0.10)		2 (0.29)		
眼科定点数	*9*	*1*	*3*	*2*	*2*	*0*	*1*
急性出血性結膜炎						−	
流行性角結膜炎	2 (0.22)			2 (1.00)		−	
基幹定点数	*6*	*1*	*2*	*1*	*1*	*1*	*0*
細菌性髄膜炎							−
無菌性髄膜炎							−
マイコプラズマ肺炎							−
クラミジア肺炎							−
感染性胃腸炎（ロタウイルス）							−

上段 ：報告数
（下段）：定点当たり報告数 報告数÷定点数

❖全数把握感染症報告状況❖ （ ）は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核7件（奈良市4、郡山1、桜井1、葛城1）
3類感染症	
4類感染症	A型肝炎1件（桜井1）
5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症1件（葛城1）

✤第 45週のトピックス✤

「平成26年度新型インフルエンザの診療と対策に関する研修」資料（厚生労働省HP）

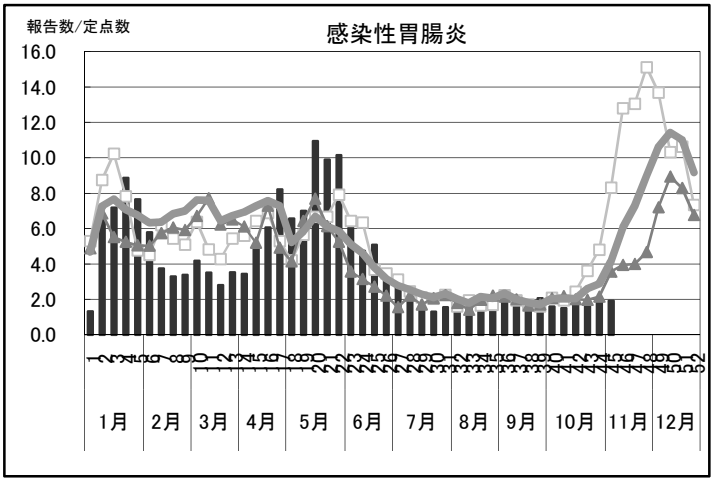
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/kouen-kensyuukai/h26.html

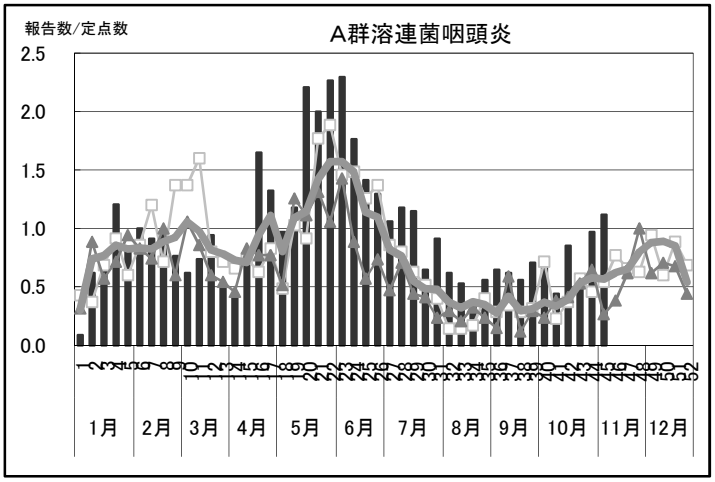
年齢別報告数

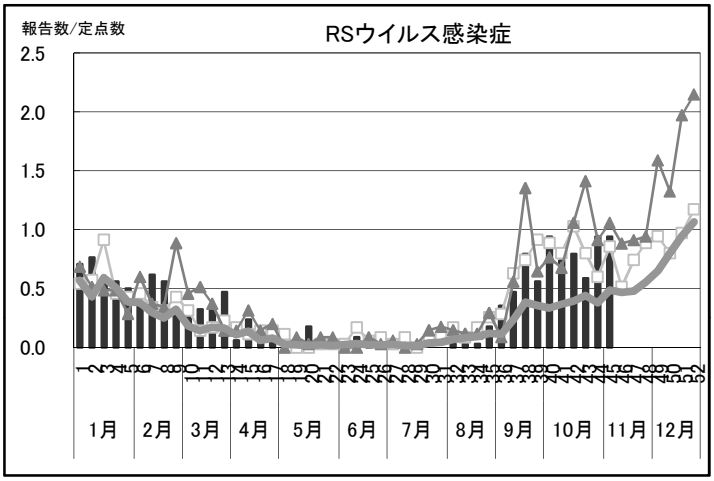
年齢区分	*年齢*	*0-5M*	*6-11M*	*1歳*	*2*	*3*	*4*	*5*	*6*	*7*	*8*	*9*	*10-14*	*15-19*	*20-29*	*30-39*	*40-49*	*50-59*	*60-69*	*70-79*	*80-*	*合計*	*累計*
インフルエンザ	男				1							2	4									7	5991
	女				1		1				1	2	1		2							8	5999
年齢区分	*年齢*	*0-5M*	*6-11M*	*1歳*	*2*	*3*	*4*	*5*	*6*	*7*	*8*	*9*	*10-14*	*15-19*	*20-*							*合計*	*累計*
RSウイルス感染症	男	1	2	8	2																	13	264
	女	6	3	3	2	3			1						1							19	239
咽頭結膜熱	男			2	1	1									1							5	477
	女												1		1							2	391
A群溶連菌咽頭炎	男					1	6	3	2	2	2		1									17	772
	女					4	3		1	1	3	1	7		1							21	707
感染性胃腸炎	男		4	9	3	4	3	1	1	4	2		2	1	6							40	3258
	女	1		4	3		3			2	3		5	1	3							25	2980
水痘	男		1	4	3	2	2					1	1									14	582
	女			1				1	1													3	495
手足口病	男				1		2								1							4	148
	女		1	3	2	1	2	1	1													11	120
伝染性紅斑	男					1	2				1		1									5	64
	女																						50
突発性発しん	男		1	4																		5	292
	女		2	2																		4	244
百日咳	男																						1
	女																						1
ヘルパンギーナ	男		1				1															2	670
	女																						599
流行性耳下腺炎	男									1												1	101
	女						1	2	1		1											5	95
年齢区分	*年齢*	*0-5M*	*6-11M*	*1歳*	*2*	*3*	*4*	*5*	*6*	*7*	*8*	*9*	*10-14*	*15-19*	*20-29*	*30-39*	*40-49*	*50-59*	*60-69*	*70-*		*合計*	*累計*
急性出血性結膜炎	男																						
	女																						
流行性角結膜炎	男															1						1	83
	女																		1			1	107
年齢区分	*年齢*	*0歳*	*1-4*	*5-9*	*10-14*	*15-19*	*20-24*	*25-29*	*30-34*	*35-39*	*40-44*	*45-49*	*50-54*	*55-59*	*60-64*	*65-69*	*70-*					*合計*	*累計*
細菌性髄膜炎	男																						6
	女																						1
無菌性髄膜炎	男																						5
	女																						2
マイコプラズマ肺炎	男																						4
	女																						5
クラミジア肺炎	男																						
	女																						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	男																						18
	女																						18

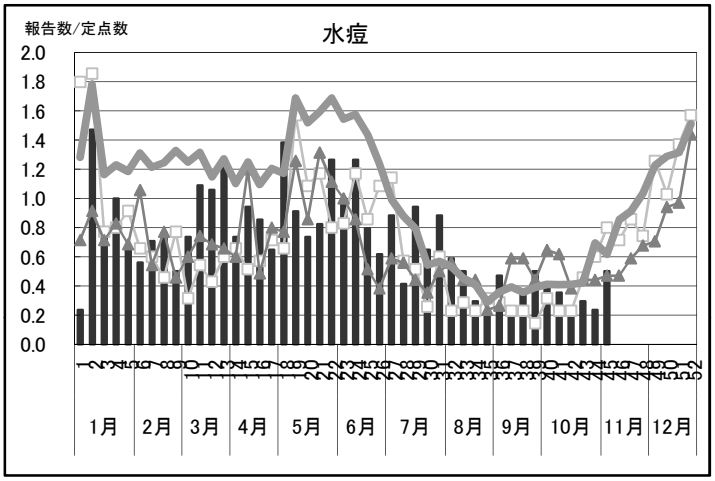
❖注目疾患の動向❖全て定点当たり報告数

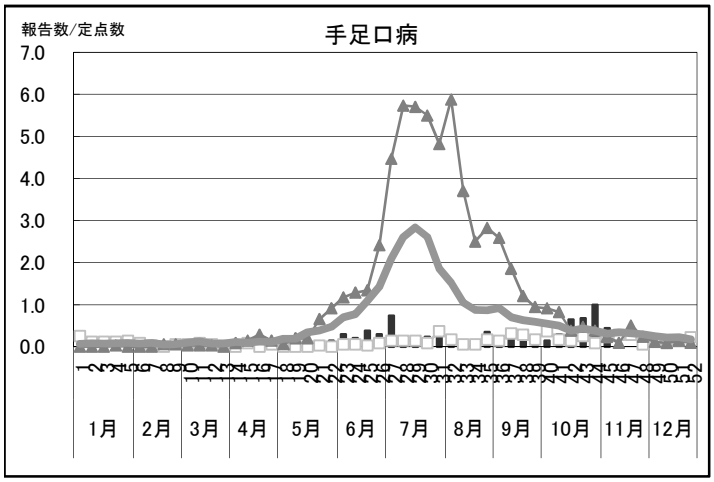
H26　H25　H24　過去10年平均

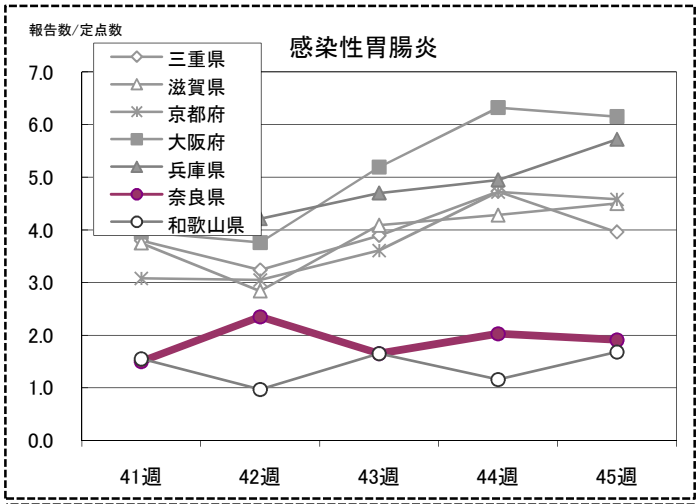


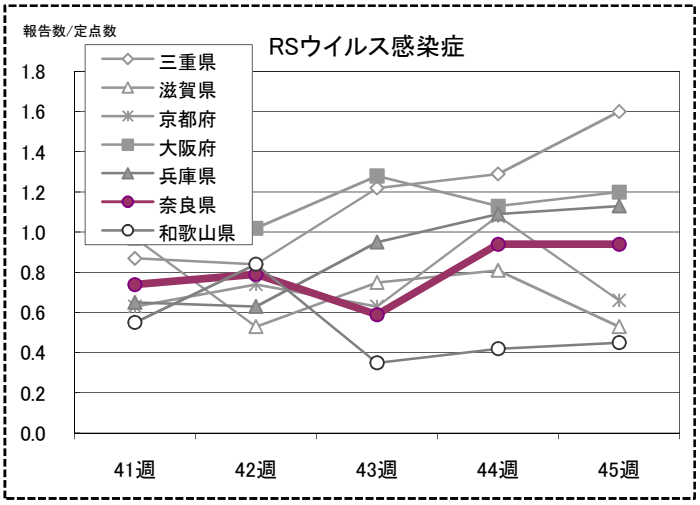


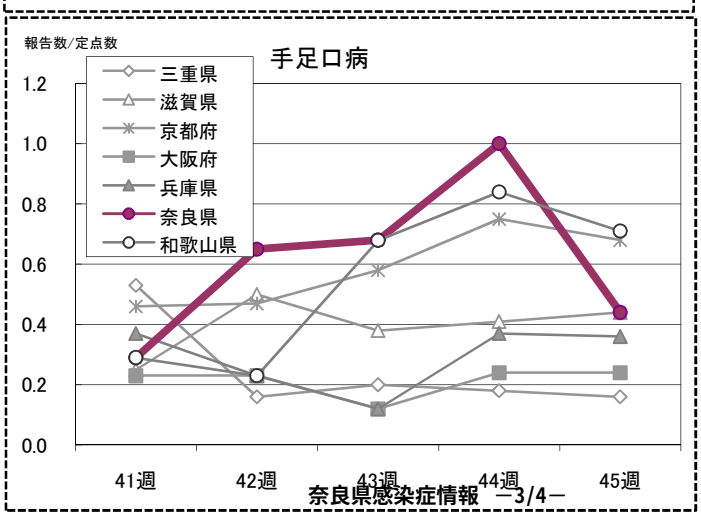












❖保健研究センター11月だより ～薬剤耐性インフルエンザウイルスについての最近の知見～❖

近年、インフルエンザの治療は従来の対症療法から外来での簡易診断キットによる判定と抗インフルエンザ薬の投与による治療へと変貌を遂げています。オセルタミビルなどの抗インフルエンザ薬の導入は治療に大きく貢献していますが、同時に耐性ウイルスの発生が懸念されています。ヒト-ヒト間で流行しているインフルエンザウイルスは主にAH1型、AH3型およびB型の3つに大きく分類されます。このうち、AH1はノイラミニダーゼ(NA)遺伝子の275位のアミノ酸がヒスチジンからチロシンへと変異することでオセルタミビルに対する感受性が低下することが明らかとなっています。

ウイルス・疫学情報チームでは2009年以降流行しているAH1型ウイルスであるAH1pdm09についてオセルタミビル耐性ウイルスの発生状況を国立感染症研究所や他の地方衛生研究所とともに調査しています。今月のセンターだよりではこれまで当センターで実施した耐性ウイルスの調査結果[1)]と国内の発生状況について報告します。

08/09シーズンの調査開始以降、合計364株について遺伝子解析を実施しました。その結果、これまで11株(3.0%)の耐性ウイルスを検出しましたが、耐性ウイルスの発生率の上昇は現在のところ確認していません。しかし、10/11シーズンの3株と13/14シーズンの3株は同一施設内でほぼ同時期に採取された患者検体から検出されており、耐性ウイルスがヒトからヒトに感染した可能性があります。

表．オセルタミビル耐性ウイルスの検索結果

シーズン※	株数	検索数	耐性株数
08/09	240	43	0
09/10	414	74	3
10/11	240	180	5
11/12	0※※	-	-
12/13	8※※	8	0
13/14	82	59	3
合計	984	364	11

※9月から翌年8月まで
※※AH1pdm09の流行が少なかったシーズン

一方、国内全体でのオセルタミビル耐性ウイルスの発生頻度は、2012/2013シーズンまでは1～2%程度で推移していましたが、2013/2014シーズンは4.2%(2524株中105株)と上昇しています[2)]。これは、国内の他の地域で耐性ウイルスが地域流行している影響を受けたためと考えられます[3)]。今シーズンの耐性ウイルスの発生にはこれまで以上に注意を払っていくことが必要と考えます。

現在、抗インフルエンザ薬はオセルタミビルの他に、ザナミビル、ペラミビル、ラニナミビルが使用されており、またエボラウイルスの治療で話題にのぼっているファビピラビルも今年新たにインフルエンザ治療薬として認可されています。抗インフルエンザ薬の種類は増加傾向にありますが、AH3型やB型についてはAH1型程耐性ウイルスの調査がされていません。今後、抗インフルエンザ薬の使用状況や、流行ウイルスの発生状況等を考え、調査対象をどのように選択し注視していくか、課題となってくると考えています。

病原体定点医療機関の先生方には、引き続き検体採取のご協力の程よろしくお願い申し上げます。特に、薬剤の効果に疑問が生じた患者さんの検体について積極的な検体採取をお願いいたします。

参考文献等

1) Yoneda M, *et al.*, Jpn.J.Infect.Dis.,67:385-388,2014

2) 2013/2014抗インフルエンザ薬剤耐性株検出情報
http://www.nih.go.jp/niid/images/flu/resistance/20141022/dr13-14j20141022-1.jpg

3) ＜速報＞2013/14シーズンに札幌市で検出された抗インフルエンザ薬耐性A(H1N1)pdm09ウイルス
http://www.nih.go.jp/niid/ja/flu-m/flu-iasrs/4232-pr4081.html

（ ウイルス・疫学情報担当 ）